

迎えて



立科町長
米村 匡人



あけましておめでとうございます。
皆様には、未来へと希望に満ち溢れる輝かしい新春をさわやかにご家族おそろいで、お迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃から町政発展のために温かいご理解と格別なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年立科町を振り返ってみますと、春の温かさが例年より早く訪れ、桜やりんごの花の開花が早く、6月には、早々と梅雨が明けて、「猛暑・酷暑」と表現されるほど暑い夏となりました。また、米の収穫時期でもある9月から10月には天候に悩まされ、台風21号や24号が襲来し、直撃を受けた地域や東信地域でも強風による倒木や多くの農産物被害も報告されていますが、立科町での農作物への被害はほとんどなかったことに胸を撫で下ろしたものです。

町民皆様には新聞報道や広報などでもご報告させていただきましたアフリカのウガンダ共和国との、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるホストタウン登録、10月にはウガンダ教育スポーツ省及びウガンダオリンピック委員会とのホストタウン事業に関する協定書の調印もできました。

また、高地でのトレーニング効果を期待し、大学等の陸上チームが白樺高原等で練習を重ねられていることから取り組んでおりました、第2牧場でのクロスカントリーコースの整備が完成し、ウガンダ共和国陸上中長距離種目ナショナルチームの練習地としても利用するとともに、地域の活

性化や観光振興等が図られることに大いに期待をよせているところでございます。

平成29年度から取り組んでいるテレワーク推進事業は、多様な住民がインターネットやパソコンを活用して仕事を通じた社会参加を果たす「社会福祉型テレワーク」の実現を目指して取り組みを進め、総務省のふるさとテレワーク推進事業に全国7か所のうちの1つとして採択され、年度末にかけてテレワークオフィスの整備を行っていくところであります。

来年4月30日の天皇陛下の退位と翌5月1日の新天皇即位により、平成の元号も残すところわずかとなりました。

私自身と同世代の天皇陛下即位という新たな時代の幕開けに身も心も引き締まる思いです。

全国的な人口減少は少子高齢化に伴う人口構造の変化を生み、国の社会経済システムにも深く影響し、経済社会の持続可能性を危うくするという点で、大きな社会的課題となっております。

立科町が事態に積極的に立ち向かうために、第5次立科町振興計画「立科町しあわせプラン」前期計画を基本に、人口の現状と将来推計や将来展望を提示する「立科町人口ビジョン」を踏まえ、5か年の目標や施策の基本的方針などをまとめた「立科町総合戦略」も最終年を迎えます。

予算編成の重点指針である「子育てしやすい町づくり」、「定住・移住したくなる町づくり」、「誰にも優しく健やかにいつまでも地域で暮らせる町づくり」を更に推し進めて行き、「人と自然が輝く町」を継承し、これまで「住んで良かった」「訪れて

良かった」と思える新たな町づくりを行っていくため施策展開を進めてまいりました。

平成31年度当初予算編成にあたっては、統一地方選挙も控えていることから「骨格予算」であることを念頭に置きながらも、今年度と同様に、「子育てしやすい町づくり」、「定住・移住したくなる町づくり」、「誰にも優しく健やかにいつまでも地域で暮らせる町づくり」の3点の重点指針に基づき、立科町で暮らすことに幸せや喜びを感じられる町づくり、そして、愛する立科町を次世代に引き継いでいくための町づくりを推進することとします。

早いもので、町長に就任し4年が過ぎようとしております、新たな立科の創造に向け期待をし、「立科に新しい風を」という、町民の皆さまの多くの願いがあったからこそ町政運営に邁進できたと深く感謝を申し上げます。

自立の道を歩んできた立科町。今日まで築きあげられてきた当町の歴史、伝統文化、郷土の先人たちの想いを未来につなげていくとともに、長野県内でも屈指の観光資源や農畜産物をはじめ立科町らしさを大切に、地域の力を活かしながら、未来の立科町を皆さまとともに創りあげるための「未来への種まき」を継続して参る所存であります。

町民の皆様のご想いを大切に、次の世代に誇れる町づくりに取り組んでまいりますので、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、新しい年が皆様にとりまして幸多い年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。